

平成二十六年度かながわの遺跡展・巡回展

発掘された御仏と仏具

みほとけ

神奈川の古代・中世の仏教信仰



神奈川県教育委員会
神奈川県立歴史博物館
茅ヶ崎市教育委員会

ごあいさつ

神奈川県内の古代・中世の遺跡からは仏像や仏具・仏教関連遺物が発見されることがあります。それらは寺院跡や経塚、墳墓だけではなく、集落跡や都市遺跡、田畑や山中、湿地など思いがけない場所からも出土します。それは仏像・仏具が様々な場所で、仏事や祭祀、葬送などに使用され、幅広い人々に仏教信仰が浸透していたためと考えられます。今回の展示では遺跡などから出土した古代・中世の様々な仏像・仏具・仏教関連遺物や出土遺跡のパネルを中心に展示することで、これらの出土品と出土遺跡の状況から、どのような形で使用されていたかを解説し、考古学の視点から民間信仰を含めた古代・中世の仏教信仰について探ります。

神奈川県教育委員会
神奈川県立歴史博物館
茅ヶ崎市教育委員会

目次

神奈川県の古代・中世における仏教関連の遺跡・遺物・・・1

第Ⅰ部 古代の仏教関連の遺跡・遺物

1. 黎明期 古墳時代終末期の様相・・・5
2. 郡家隣接寺院と出土仏像・仏具・・・5
3. 国分寺・尼寺・・・9
4. 村落内寺院の仏具・集落内の出土仏具・・・10
5. 国府周辺では・・・14
6. 火葬墓の出土品・・・15
- トピックス1 村落内寺院の集中地域 上総・下総・・・16
7. 経塚の様相（平安時代末期～中世初期）・・・16

第Ⅱ部 中世の仏教関連の遺跡・遺物

1. 中世都市鎌倉出土の仏像と仏具・・・19
2. 山岳信仰との関わり・・・24
3. 大寺院の園池から・・・25
4. 中世集落の事例・・・26
- トピックス2 埋もれた三具足・・・27
5. 戦国時代の城下町と居館の仏教関連遺物・・・27

例言

○本冊子は、平成26年度かながわの遺跡展・巡回展『発掘された御仏と仏具—神奈川の古代・中世の仏教信仰—』の展示図録です。

○本展は、神奈川県教育委員会（神奈川県埋蔵文化財センター）・神奈川県立歴史博物館（遺跡展）・茅ヶ崎市教育委員会（巡回展）が主催します。

○展示会場と会期は次のとおりです。

遺跡展 神奈川県立歴史博物館 平成26年12月6日（土）～平成27年1月18日（日）休館日は月曜日

巡回展 茅ヶ崎市文化資料館 平成27年1月31日（土）～3月1日（日）休館日は月曜日

○会期中、講演会を次のとおり行います。

遺跡展講演会 神奈川県立歴史博物館 講堂

第1回 12月13日（土）立正大学名誉教授 坂詰秀一氏

第2回 1月10日（土）神奈川県立歴史博物館館長 薄井和男氏

巡回展講演会 茅ヶ崎市高砂コミュニティセンター

2月21日（土）浄光明寺執事 古田土俊一氏

○ポスター・図録表紙等の写真撮影は加藤芳明氏（かとう写真館）に、題字は井澤静窗氏にお願いしました。

○図録の出土品写真のキャプションは、品名・出土遺跡・所蔵を記し、県教育委員会所蔵については、所蔵を略しました。公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターは、横浜市埋蔵文化財センターと略しました。

○企画・図録の作成は、神奈川県立歴史博物館（担当 古宮雅明）、茅ヶ崎市教育委員会（担当 大村浩司・須藤格）の協力を得て、神奈川県教育委員会文化遺産課中村町駐在事務所〔神奈川県埋蔵文化財センター〕（富永樹之（担当）・長谷川早季子・竹内俊吾）が行いました。

○表紙写真：県内各地の仏教関連遺物出土品、本ページ写真：横浜市内の蓮華



神奈川県の古代・中世における仏教関連の遺跡・遺物

神奈川県内の遺跡で仏教関連遺物が、発見されはじめるのは古墳時代終末期の古墳・横穴墓からで、仏教の信仰というより、威信財、最先端の文物として副葬されたものだった。

仏教関連の遺跡・遺物が揃って、確認できるのは7世紀末から8世紀であり、8・9世紀には、国分寺、郡家隣接寺院、火葬墓、村落内寺院、山岳寺院など仏教関連遺跡が県内各地で現れる。

相模国分寺は、確認調査により塔、金堂の一部、講堂、中門、僧坊など伽藍の建物の多くが検出されている。瓦類や水煙等が出土しているが、出土品として灯明皿以外の仏像・仏具については今のところ、確認されていない。最初に行われた確認調査の出土品についても、国が管理していることもあり、詳細が明らかになっていない。

郡家隣接寺院としては、川崎市の影向寺、横浜市弘明寺、鎌倉市千葉地廃寺、横須賀市宗元寺、茅ヶ崎市下寺尾廃寺、小田原市千代廃寺がある。特に下寺尾廃寺と千代廃寺は発掘調査が進み、伽藍内の基壇建物が部分的ながら確認されている。下寺尾廃寺の伽藍周辺からは多量の瓦の他、銅匙、軸端じくはな(経文の端につけた金具)、仏鉢形土器、陶製相輪、二彩火舎、二彩小壺蓋、高环形香炉、花瓶、瓦塔などの様々な仏具が発見されている。下寺尾廃寺の近隣の河川の旧河道では、多くの祭祀具が仏教関連遺物と混在して出土している。

火葬墓は奈良時代から平安時代前期にかけて盛行する。日本では火葬は仏教と共に伝わったという説が有力とされ、これは釈迦が火葬されたことにちなむ。火葬墓は川崎市から横浜市北部と平塚市周辺に集中して発見されている。前者は渡来系の氏族とその子孫、後者は、国府周辺の官人らが被葬者として推定される。前者の地域の場合、骨蔵器として在地の土師器甕のほか、土師質専用容器、須恵器・灰釉陶器の短頸壺(薬壺系)、獣足付壺、三彩壺など様々な種類のものが出土している。また平安時代末の事例だが、国宝の渥美窯秋草文壺(展示対象外)もこの地域の骨蔵器として出土したものである。

村落内寺院については、確実なものは5例ほどである。村落内寺院は、集落内またはその近くに仏堂が確認されるもので、四面庇付掘立柱建物や簡素化した礎石建物などの仏堂が主体である。全てが集落構成員の共同で成り立ったという考え方は疑問視されており、一部は在地の有力者の氏寺や官寺の別院・修行場の可能性がある。しかし仏堂は検出されていないものの、仏具が集落内から出土する例はかなりの多いため、神奈川の古代仏教は民衆と無縁だったという考え方は、過去のものとなりつつある。ただし、近世のように村ごと、集落ごとに寺があるという考え方は困難であり、地域の信仰的な土壌により村落内寺院の有無が左右されたのだろう。村落出土の仏具としては仏鉢形土器や水瓶、浄瓶、瓦塔、「寺」「仏」墨書土器など



相模国分寺塔跡の発掘調査状況 海老名市教育委員会



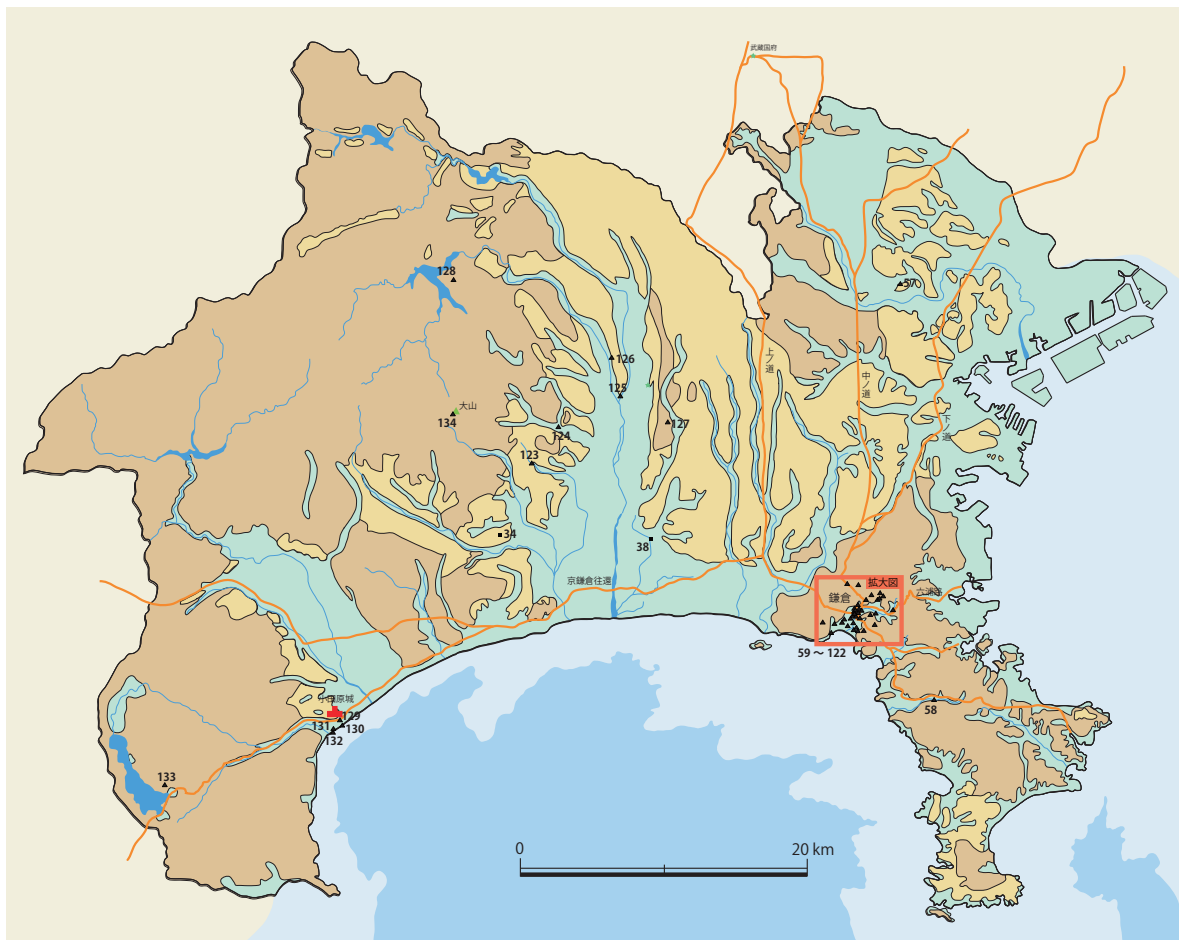
神奈川県内の展示物出土地位置図〈古代〉

- 1 川崎市高津区下作延日向横穴墓
- 2 川崎市高津区浄元寺裏横穴墓群
- 3 川崎市多摩区生田 8601 火葬墓
- 4 川崎市宮前区有馬 2509 火葬墓
- 5 川崎市宮前区有馬 2511 火葬墓
- 6 川崎市宮前区野川 2623 火葬墓
- 7 川崎市麻生区上台遺跡
- 8 川崎市麻生区宮添遺跡
- 9 横浜市都筑区藪根不動原遺跡
- 10 横浜市都筑区池辺第 28 遺跡
- 11 横浜市都筑区権田原遺跡
- 12 横浜市緑区東耕地遺跡
- 13 横浜市緑区宮之前遺跡
- 14 横浜市栄区上郷猿田遺跡
- 15 横須賀市上吉井南遺跡
- 16 葉山町三ヶ岡遺跡
- 17 平塚市神明久保遺跡
- 18 平塚市諏訪前遺跡
- 19 平塚市山王 A 遺跡
- 20 平塚市山王 B 遺跡
- 21 平塚市天神前遺跡
- 22 平塚市林 B 遺跡
- 23 平塚市四之宮下郷
- 24 平塚市中原上宿遺跡
- 25 平塚市構之内遺跡
- 26 平塚市大会原遺跡
- 27 平塚市稲荷前 A 遺跡
- 28 平塚市六ノ城遺跡
- 29 平塚市高林寺遺跡
- 30 平塚市中原御殿 D 遺跡
- 31 平塚市梶谷原 B 遺跡
- 32 平塚市南金目琉球山経塚
- 33 平塚市向原遺跡
- 34 平塚市真田・北金目遺跡群
- 35 秦野市岩井戸横穴墓
- 36 秦野市鶴巻大椿遺跡（横穴墓）
- 37 茅ヶ崎市本村居村 B 遺跡
- 38 茅ヶ崎市下寺尾七堂伽藍跡
（下寺尾官衙遺跡群）
- 39 茅ヶ崎市香川・下寺尾遺跡群
（下寺尾官衙遺跡群）
- 40 伊勢原市登尾山古墳
- 41 伊勢原市比々多神社経塚
- 42 伊勢原市坪ノ内・宮ノ前遺跡
- 43 厚木市愛名宮地遺跡
- 44 厚木市下荻野中三嶽遺跡
- 45 厚木市川田前遺跡
- 46 海老名市上浜田遺跡
- 47 相模国分寺跡
- 48 海老名市国分尼寺北方遺跡
- 49 厚木市鷲尾遺跡
- 50 愛川町八菅山経塚
- 51 相模原市田名坂上遺跡
- 52 相模原市田名塩田遺跡群
- 53 清川村馬場遺跡
- 54 小田原市千代北町遺跡・千代南原遺跡
- 55 小田原市千代南原遺跡
- 56 南足柄市御嶽神社裏山経塚
- 57 横浜市都筑区新宮台横穴墓
- 58 葉山町間門遺跡
- 59 宇都宮辻子幕府跡
（小町二丁目 389 番 1）
- 60 華光院跡やぐら群
- 61 若宮大路周辺遺跡群
（雪ノ下一丁目 210 番）
- 62 由比ヶ浜中世集團墓地遺跡
（由比ヶ浜四丁目 6 番 9）
- 63 新善光寺跡内やぐら
- 64 宝蓮寺跡
- 65 鶴岡八幡宮收藏庫用地
- 66 仏法寺跡
- 67 円覚寺門前遺跡

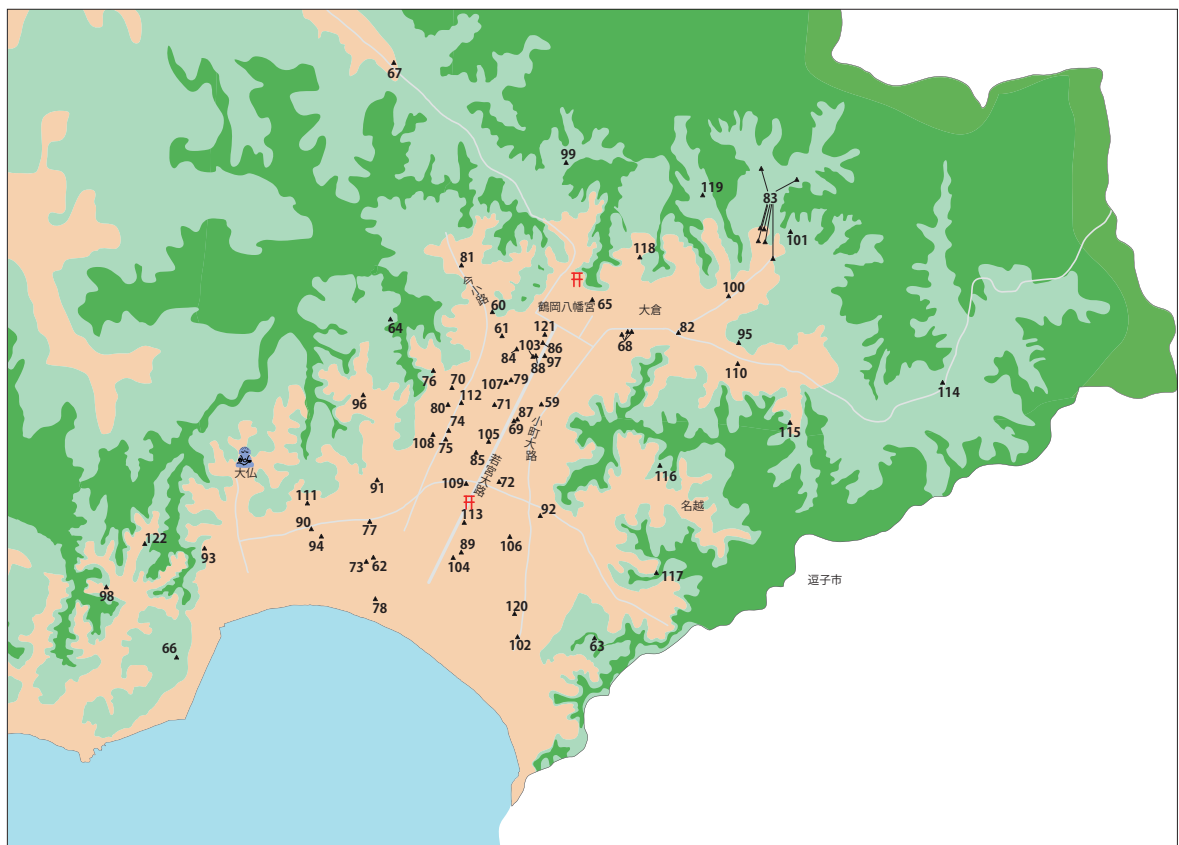


平塚国府周辺の出土位置図

- 68 南御門遺跡
- 69 藤内定員邸跡 (小町一丁目 309 番 5)
- 70 今小路西遺跡 (御成町 171 番 1)
- 71 若宮大路周辺遺跡群 (小町一丁目 106 番 1)
- 72 若宮大路周辺遺跡群 (大町一丁目 1034 番 9)
- 73 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡
(第 5 地点 鳥かつ用地)
- 74 若宮大路周辺遺跡群 (第 872 番 1 地点)
- 75 若宮大路周辺遺跡群 (御成町 783 番 1)
- 76 無量寺跡
- 77 長谷小路周辺遺跡 (由比ヶ浜三丁目 254 番 15)
- 78 由比ヶ浜南遺跡
- 79 若宮大路周辺遺跡群 (小町二丁目 5 番 8)
- 80 千葉地遺跡
- 81 武蔵大路周辺遺跡 (扇ヶ谷二丁目 382 番 1)
- 82 大倉幕府周辺遺跡群 (雪ノ下 562 番 16)
- 83 永福寺跡
- 84 若宮大路周辺遺跡群 (小町一丁目 198 番 6)
- 85 若宮大路周辺遺跡群 (御成町 868 番地点)
- 86 北条時房・顕時邸跡
(雪ノ下一丁目 267 番 2,4 地点)
- 87 若宮大路周辺遺跡群 (小町一丁目 322 番)
- 88 北条時房・顕時邸跡
(雪ノ下一丁目 273 番地点)
- 89 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡
(由比ヶ浜二丁目 1034 番 1)
- 90 長谷小路南遺跡 (由比ヶ浜三丁目 202 番 2)
- 91 笹目遺跡
- 92 米町遺跡第 10 地点
- 93 長谷寺
- 94 長谷小路周辺遺跡
- 95 杉本寺周辺遺跡内やぐら
- 96 佐助ヶ谷遺跡
- 97 北条小町邸跡 (雪ノ下一丁目 369 番 1 地点)
- 98 極楽寺中心伽藍跡
- 99 建長寺境内
- 100 横小路周辺遺跡 (二階堂字横小路 93 番 11)
- 101 瑞泉寺周辺遺跡
- 102 材木座町屋遺跡 (材木座三丁目 364 番 1 外)
- 103 北条時房・顕時邸跡
(雪ノ下一丁目 273 番イ地点)
- 104 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡
(由比ヶ浜 1015 番 23)
- 105 若宮大路周辺遺跡群 (小町一丁目 83 番)
- 106 材木座町屋遺跡 (材木座一丁目 910 番)
- 107 若宮大路周辺遺跡群 (小町二丁目 12 番 15)
- 108 今小路西遺跡 (御成町 625)
- 109 下馬周辺遺跡 (由比ヶ浜二丁目 3 番)
- 110 杉本寺周辺遺跡
- 111 長楽寺南やぐら
- 112 千葉地東遺跡
- 113 下馬周辺遺跡
- 114 光触寺橋やぐら
- 115 宅間谷西やぐら群
- 116 山王堂東谷やぐら群
- 117 松葉ヶ谷奥やぐら群
- 118 西御門東やぐら群
- 119 覚園寺総門跡東やぐら群
- 120 材木座町屋遺跡 (材木座三丁目 372 番 26)
- 121 北条時房・顕時邸跡 (雪ノ下一丁目 265 番 3)
- 122 真言院北やぐら群
- 123 伊勢原市上粕屋・小山遺跡
- 124 厚木市曾野No.1 遺跡
- 125 海老名市河原口坊中遺跡
- 126 厚木市中依知遺跡群
- 127 綾瀬市宮久保遺跡
- 128 清川村表の屋敷遺跡
- 129 小田原城三の丸弁財天跡第 V 地点
- 130 小田原市杉浦平太夫邸跡他
- 131 小田原市御組長屋遺跡
- 132 小田原市山角町遺跡第 IV 地点
- 133 箱根町大芝遺跡
- 134 大山山頂遺跡



神奈川県内の展示物出土地位置図〈中世〉



鎌倉の出土位置図

土器類が一般的で、青銅製品、金銅製品は少ない。また土師器坏転用の灯明皿も多く出土する。

平塚国府周辺では掘立柱建物や竪穴住居が密集して検出され、国府域を形成している。国府域の各所から、仏教関連遺物が出土している。村落同様の土器類の仏具に加えて、緑釉陶器の香炉や蓮花文の緑釉壺、佐波理匙、灰釉陶器獣足付壺、梵字や「大佛」墨書土器など特殊なもの、奢侈な製品が含まれている。また古代として県内唯一の出土金銅仏も確認されている。国府域では、いまだに明確な仏堂施設は発見されていないため、遺構として目立たない仏堂・祠、個人の礼拝施設、持仏堂などで使用されていたのだろう。また高級日用品として仏器風の製品が使われていた可能性もある。

経塚については、平安時代末から中世初頭の事例として、丹沢・箱根山麓の地域や鎌倉周辺に多いが、前者は修験道や山岳信仰とも結びついたものであろう。

中世前半では、鎌倉からの仏具・仏像が多く出土しており、寺院ややぐら、墓地の他、屋敷・町屋跡からも出土している。寺院・墓以外では祠、宅地内の礼拝施設・持仏堂、個人の念持仏などで仏像・仏具が用いられたのであろう。その種類は、木製仏像、青銅製仏像、石塔類、土製・銅製の五輪塔、数珠、塔婆類、密教法具、梵音具、仏花瓶、香炉、仏供など多種におよぶ。

永福寺跡と建長寺では、中世の園池が発掘調査され、池の覆土から多くの仏具や塔婆が出土した。仏事・祭祀や火災にとまなう廃棄の結果であり、中世の大寺院の実態がうかがえる興味深い資料である。特に仏堂内を飾ったとされる金銅製装飾具や木製蓮華蕾などの荘厳具は、技巧に富んだものが多い。

修験道・山岳信仰に関連し、山地から中世の仏教関連遺物が出土することがある。箱根と大山に関する事例は、神奈川を代表する山岳への信仰が中世でも盛んだったことを裏付けている。

中世村落跡でも少数だが仏具が出土している。庶民に信仰が広まっていることはうかがえるものの、仏教施設が集落内でまだ発見されておらず、実態がつかみにくい。

戦国時代の小田原城下では石塔類などが在地の石材で多量に生産されたことが明らかになっており、石工集団の存在が推定されている。戦国時代の居館からは懸仏などが出土する例があり、在地の領主・土豪の居館内での仏教信仰を表していると考えられる。

●仏具の種類と分類について

仏教に関わる遺跡・遺物によって、仏教信仰やその歴史を明らかにする仏教考古学という分野を、戦後、系統付け発展させた著作は、石田茂作・坂詰秀一らの『新版仏教考古学講座』である。それによると仏具は、①荘厳具。寺院等を装飾する品、②供養具。仏を供養する燈・華・香を基本とした器物や飲食具、③梵音具。宗教的な雰囲気をもたせるため、発音される用具、④僧具。僧侶が身につけたり、身に備えた品、⑤密教法具となる。この分類によれば県内出土の古代の仏教関連遺物は、②香炉^{かしや}、火舎^{かしや}、花瓶^{かしや}、灯明皿^{すいびょう}、水瓶^{すいびょう}、浄瓶^{すいびょう}、銅匙^{どうわん}、銅鉢^{どうわん}、獣足付壺④仏鉢形土器(※②にも入る)。仏像、塔類、経(軸端・経筒)は崇拜の対象または思想的な根拠なので別扱いとなる。中世の仏教関連遺物については、①永福寺跡・建長寺園池出土の金銅製・木製装飾具②仏花瓶、香炉^{ぶつく}、仏供^{ぶつく}、燭台^{けい}③磬^{いんきん}、引磬^{しょうこ}、鉦鼓^{しょうこ}④数珠^{ろつき}⑤六器^{ごこしよ}、五鈷杵^{ごこしよ}、金剛盤などになる。

神奈川県の古代においては土器・陶器の仏具が多く、供養具が圧倒的に多い。もっとも布・木製の遺物は残りにくいという事情もあるが、物流の少ない地方の寺院・仏堂において、まず仏を供養する道具が最低限の仏具として必要だったのだろう。古代より中世の仏教関連遺物の種類は格段に増えており、金属製仏具が増加し、密教法具、梵音具などが確認され始める。数珠や仏供など古代にはなかったものも出現している。これは鎌倉という流通の盛んな都市遺跡があったことが大きいですが、中世に仏具の種類が細分化されてきたことにもよる。石塔類・塔婆類もこの時期にあらわれる。

第I部 古代の仏教関連の遺跡・遺物

1. 黎明期 古墳時代終末期の様相

神奈川県内の遺跡で仏教関連遺物が、発見されはじめるのは古墳時代終末期の遺跡からである。この頃は、飛鳥時代・白鳳時代ともいわれ、畿内では多くの寺院が建てられ、地方にも仏教文化が広まった時期に当たる。神奈川県では、最初に仏具等が確認できるのは古墳の石室や横穴墓からの出土品になる。これは、仏教信仰というより権力の象徴として在地の豪族や有力者の墓に副葬されたもので、最先端の文物としての意味もあったのだろう。県内では銅鉢や銅匙などが出土しており、特に伊勢原市登尾山古墳の銅鉢は蓋付きの優品である。



銅鉢 伊勢原市登尾山古墳
比々多神社 伊勢原市指定文化財



銅鉢 川崎市浄元寺裏横穴墓群
川崎市市民ミュージアム



銅鉢 川崎市下作延日向横穴墓
川崎市市民ミュージアム

2. 郡家隣接寺院と出土仏像・仏具

7世紀末から8世紀前半にかけて郡を管理する役所として郡家が設置され、在地の豪族が郡司に任命された。郡家の近くには、郡司が造営した寺院が確認される事例が多い。郡司の本拠地に作られた寺院であり、郡家廃絶後も存続する場合もある。県内で発掘調査が進んでいる小田原市の足下郡家と千代廃寺および茅ヶ崎市の高座郡家と下寺尾廃寺の2遺跡群の出土仏像・仏具を紹介する。

●小田原市足下郡家関連遺跡と千代廃寺

足下郡の郡家は、遺構として明確に確認されたわけではないが、小田原市永塚・千代の台地上に展開すると推定される。その南側に千代廃寺が存在していたと考えられ、礎石や基壇の痕跡が検出され、多量の瓦が出土している。昭和30年代の発掘調査では、塼仏・蓮華形土製品・螺髪・多量の灯明皿などが出土しており、



塼仏 小田原市千代廃寺



螺髪 小田原市千代廃寺



蓮華形土製品 小田原市千代廃寺



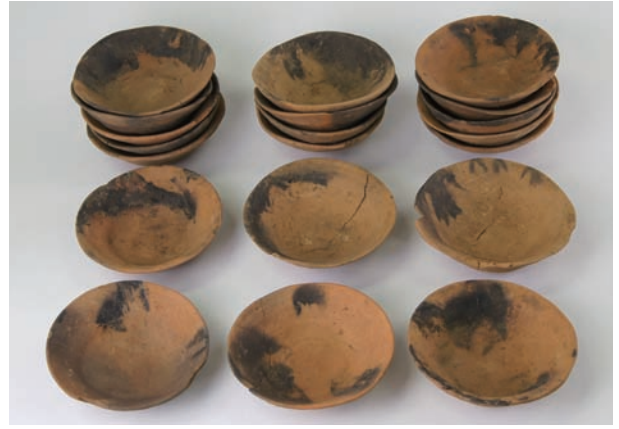
木簡(千代1号木簡)
小田原市千代南原遺跡
小田原市教育委員会
小田原市指定文化財



木簡(千代2号木簡)
小田原市千代南原遺跡
小田原市教育委員会
小田原市指定文化財



木製祭祀具 刀形・齋串他
小田原市千代南原遺跡 小田原市教育委員会



灯明皿(土師器坏) 千代廃寺



埴 千代北町遺跡他 小田原市教育委員会



木簡・馬形他 千代廃寺

本尊の周辺を飾っていた品と考えられる。螺髪は仏像の髪の毛にあたり、それぞれが渦を巻いている。被熱しているものが多く、仏像が火災で失われて土製の螺髪だけが残ったのだろう。また郡家の東側の低地では、木簡や祭祀具、墨書土器に加え獣足付き壺などの仏具も確認されている。千代廃寺西側の低地では、僧が読経したことが記された木簡(千代2号木簡)や木製祭祀具が発見されている。木製祭祀具は仏教と直接関係はないが、郡家と千代廃寺周辺では仏事と律令的祭祀が混交するように執り行われていたと考えられる。

●高座郡家と下寺尾廃寺(茅ヶ崎市下寺尾官衙遺跡群)

高座郡の郡家は茅ヶ崎市下寺尾の台地上にあり、郡庁院と正倉院が確認されている。郡家南側の微高地には下寺尾廃寺が存在し、発掘調査により基壇建物や大型掘立柱建物、伽藍を囲む溝などが検出されている。現在も主要伽藍の確認が進んでおり、近いうちに伽藍配置の全貌が明らかになると見られる。伽藍周辺からは多量の瓦の他、銅匙、軸端(経文の端につけた金具)、仏鉢形土器、陶製相輪、二彩火舎、二彩小壺蓋、高坏形香炉、花瓶、瓦塔などの様々な仏具が発見されている。陶製相輪は塔の屋根を飾る相輪が金属製ではなく、陶製のものです。県内ではほとんど類例が確認できない。二彩火舎は3個体が確認されており、壺類も含めると二彩陶器の出土点数としては一遺跡で最多である。

下寺尾廃寺の南側には駒寄川が西流し、西側には小出川が南流しているが、共に古代の旧河道が発掘調査されている。運河としての機能もあったと考えられ、小出川旧河道では荷の積み卸しをした河津状の遺構も発見されている。発掘された小出川旧河道からは、「浄」「太寺」墨書土器や陶製相輪等の仏教関連遺物が出土し、人形・刀形・齋串・人面墨書土器・「神」刻書紡錘車、絵馬等の多量の祭祀遺物も出土している。また駒寄川旧河道からは「仏」「寺」の墨書土器や経習書の漆紙文書、浄瓶、水瓶等の仏教関連遺物が出土し、人面墨書



旧河道遺物集中 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



須恵器浄瓶 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



須恵器瓶 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



銅匙 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



二彩陶器火舎 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



軸端 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



須恵器仏鉢形土器 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



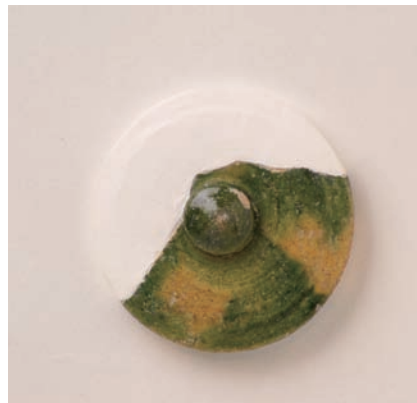
陶製相輪か 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



人形・木札・弓・刀形
(木製祭祀具等) 下寺尾官衙遺跡群



高環形香炉 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



二彩陶器壺蓋 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



「寺」墨書土器 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



人面墨書土器
下寺尾官衙遺跡群



銅製鈴
下寺尾官衙遺跡群



「病・積・横・・」多文字墨書土器
下寺尾官衙遺跡群 茅ヶ崎市教育委員会



円面碗 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



灯明皿（土師器皿）
下寺尾官衙遺跡群



木製祭祀具か
下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



人面墨書土器 下寺尾官衙遺跡群
茅ヶ崎市教育委員会



絵馬 下寺尾官衙遺跡群



2号木簡（放生関連）
居村B遺跡
茅ヶ崎市教育委員会

土器や多量の墨書土器、木製祭祀具等の多量の祭祀遺物も出土している。同様に出土した皇朝銭や銅鈴も祭祀上の供献品として使われていた可能性が高い。祭祀が河川で行われていたか、他の場所から廃棄されたものなのかは明確ではないが、千代廃寺同様、下寺尾廃寺周辺では仏事と律令的祭祀が混交して行われていたと見られる。

●茅ヶ崎市居村B遺跡

下寺尾廃寺の3kmほど南方に茅ヶ崎市居村B遺跡があり、放生ほうじょうに関連した木簡が多量の墨書土器とともに出土している。放生とは仏教の不殺生の思想に基づいて、捕らえた生物を山野に放すことである。居村B遺跡の2号木簡には「放生布施」などの文字があり、4号木簡には、何らかの行事において地域の有力者に酒と飯を支給したと記されている。4号木簡の記載については放生会で支給した内容との見方が強くなっており、この地において放生会が開かれていたと推定されるが、木簡の内容からは公的な行事と考えられ、国・郡の官人や僧侶が関与したと考えられる。

3. 国分寺・尼寺

古代の神奈川県は相模国と武蔵国の一部の範囲が含まれるが、両国の国分寺に関する仏教関連遺物を紹介する。

●相模国分寺・尼寺の仏教関連遺物

海老名市にある相模国分寺については、昭和41年の発掘調査以後、多くの確認調査が実施されている。出土品については、瓦類・水煙^{すいえん}・灯明皿などが確認されている。水煙は塔の頂につく九輪の上につく飾り金具で、塔の崩壊後に地中に埋もれたものである。

尼寺については周辺から「法華寺」(国分尼寺の意味)墨書土器や仏器の稜碗が出土している。



水煙 相模国分寺跡



軒丸・軒平瓦 相模国分寺跡
海老名市教育委員会



「法華寺」墨書土器 国分尼寺北方遺跡
海老名市教育委員会



須恵器稜碗 国分尼寺北方遺跡
海老名市教育委員会

●武蔵国分寺

東京都国分寺市にある武蔵国分寺は、昭和31年以来の発掘調査以来、広範囲にわたる中心伽藍・関連施設の調査が進んでいる。

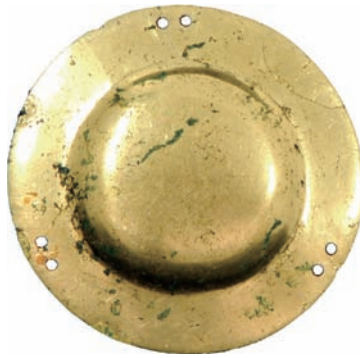
国分寺西方の道路状遺構から出土した銅造観世音菩薩立像は、関東でももっとも古い白鳳仏の一つとされ、被熱していることから火災にあつて運び出されたと推定される。緑釉陶器花文皿は、丁寧な蓮華文の中央に大日如来を表す梵字を刻したもので文様は生産時に施されたものである。緑釉陶器には、銀器・青磁写しの蓮華文はよく見られるが、これほど丁寧な文様と梵字は極めてまれである。仏具として製作された可能性が高い。唐草四獣文銅蓋は仏器^{わん}の鉢(金属製の碗)等の蓋と考えられ、写真では見づらいが外面に唐草文や獣形文を施している。銅板製鍍金飾り金具は、法会などの際に仏殿の前に飾る幡^{ばん}(長く垂れ下がる旗のような布)の飾りであり、布にしぼりつけるための穴があげられている。法隆寺に伝世していた幡に同様の飾り金具が確認できる。



銅造観世音菩薩立像
武蔵国分寺跡 国分寺市教育委員会
東京都指定文化財



緑釉陶器花文皿（梵字付き） 武蔵国分寺跡
国分寺市教育委員会 東京都指定文化財



銅板製鍍金飾り金具 武蔵国分寺跡
国分寺市教育委員会 国分寺市指定重要文化財



銅製海獣葡萄鏡 武蔵国分寺跡
国分寺市教育委員会 国分寺市指定重要文化財



銅製鈴 武蔵国分寺跡 国分寺市教育委員会



唐草四獣文銅蓋 武蔵国分寺跡
国分寺市教育委員会 東京都指定文化財

4. 村落内寺院の仏具・集落内の出土仏具

古代集落内に仏堂がまれに発見されることから、「村落内寺院」とされ、一部の集落では、村落内の有力者・下級役人・私度僧（免許のない僧）・庶民らによる仏堂の運営があったとされている。これらの村落内寺院では、仏鉢形土器や浄瓶・水瓶、灯明皿、瓦塔など質素な仏具が出土する。

●川崎市宮添遺跡の仏堂

川崎市宮添遺跡では竪穴住居主体の集落内に唯一の掘立柱建物（建て替え有り）があり、側柱建物だが、一時期束柱を持っていた。その周辺から瓦塔の破片や「寺」刻書土器、浄瓶、複数の仏鉢形土器、水瓶、鉄匙が出土しており、この掘立柱建物が集落を見下ろす高地にあることから仏堂と推定されている。

●横浜市藪根不動原遺跡の仏堂

双堂形式の掘立柱建物群が2地点で発見されており、仏堂と考えられている。多数の瓦塔破片や仏鉢形土器、浄瓶が周辺から出土している。また僧が使った可能性のある風字硯や特殊な記号を墨書土器も発見されている。

●横浜市権田原遺跡の仏堂

四面庇建物等の掘立柱建物が同じ場所に3時期にわたって建て替えられており、仏堂と推定される。脇には



「寺」刻書土器 川崎市宮添遺跡
川崎市民ミュージアム



瓦塔片 川崎市宮添遺跡
川崎市民ミュージアム



鉄匙 川崎市宮添遺跡
川崎市民ミュージアム



灰釉陶器浄瓶(上半復元)
宮添遺跡 川崎市市民ミュージアム



須恵器仏鉢形土器 宮添遺跡 川崎市市民ミュージアム



須恵器水瓶(頸部欠)
宮添遺跡 川崎市市民ミュージアム

1間×1間の掘立柱建物があり、塔または祠状の建物が並んでいたと考えられる。周辺の竪穴住居から複数の仏鉢形土器や灯明皿が出土した。

●厚木市愛名宮地遺跡の仏堂

仏堂は三面庇付きの布掘り建物から基壇建物に作り替えられていた。多数の瓦塔破片や仏鉢形土器、灯明皿、「寺」墨書土器、仏堂に使用した大型釘などが出土している。

●清川村馬場遺跡の仏堂

山間部の集落を望む高地に小規模な礎石建物を造り、仏堂としていた。周辺から複数の「寺」墨書土器、仏堂に用いた大型鉄釘、灯明皿、甕転用の香炉形土器が出土している。

●横浜市上郷猿田遺跡

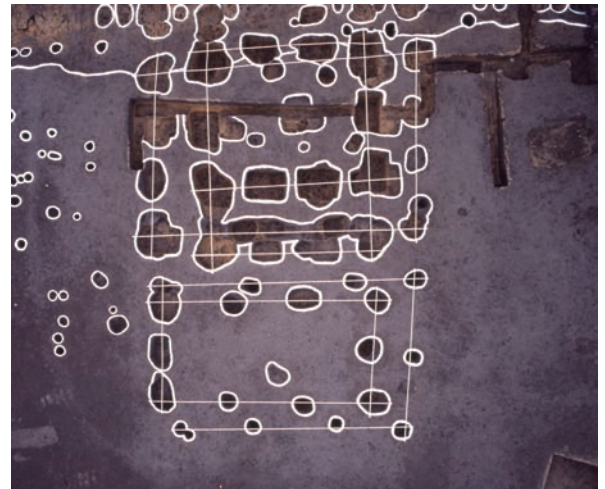
一面庇を持つ大型掘立柱建物が単独で存在するが、周辺の竪穴住居から完形の把手付き短頸壺(薬壺形)が出土している。仏堂の可能性はある。



瓦塔片 横浜市藪根不動原遺跡 横浜市歴史博物館



灰釉陶器浄瓶(上半部)
横浜市藪根不動原遺跡 横浜市歴史博物館



横浜市藪根不動原遺跡の仏堂



横浜市権田原遺跡の仏堂



土師器仏鉢形土器 横浜市権田原遺跡 横浜市埋蔵文化財センター



厚木市愛名宮地遺跡の仏堂跡



「寺」墨書土器 厚木市愛名宮地遺跡
厚木市教育委員会



黒色土器・須恵器仏鉢形土器
厚木市愛名宮地遺跡 厚木市教育委員会



瓦塔片 厚木市愛名宮地遺跡 厚木市教育委員会



清川村馬場遺跡の仏堂（礎石の手前半分は近世の土取りで無くなっている）



「寺」墨書土器 清川村馬場遺跡



須恵器把手付き短頸壺（葉壺形）
横浜市上郷猿田遺跡



須恵器仏鉢形土器・灯明皿・墨書土器蓋
横浜市宮之前遺跡



灰釉陶器浄瓶 上吉井南遺跡
横須賀市自然・人文博物館

●僧侶の家・修行場

出土品のセットから私度僧の家の可能性がある竪穴住居が見受けられる。横浜市宮之前遺跡では1軒の竪穴住居から仏鉢形土器と灯明皿・墨書土器がカマド周辺から出土した。いずれもほとんど完形で、それ以外に形になる出土品はない。また横須賀市の上吉井南遺跡でもひとつの住居からほぼ完形の浄瓶と仏鉢形土器が出土した。住居兼修行場かもしれない。宮之前遺跡の場合は、近隣の側柱掘立柱建物3棟が規則的な配列をしており、これが仏堂になることもありうる。上吉井遺跡は未調査範囲に仏堂の存在した可能性がある。

●集落において単独で出土する場合

その他にも古代集落内で特に仏堂施設等は見あたらないものの、仏鉢形土器や稜碗、三彩壺、水瓶、浄瓶、瓦塔破片、「寺」「仏」墨書土器などが出土する場合がある。集落内の小規模な祈りの場や前述の僧の家、祭祀に伴う仏具の持ち込みなどが推定される。仏堂が一般的な側柱建物の場合は区別がつかないため、仏堂と認定できないことも考えられる。川崎市上台遺跡の稜碗は、遺跡内に有力者の居宅があるため、居宅内に仏事の施設があったのかもしれない。平塚市真田・北金目遺跡群では、銅鉢・瓦塔・盤・仏顔墨書土器など仏具の量が多いため、未調査範囲に仏堂がある可能性が高い。



須恵器仏鉢形土器 平塚市向原遺跡



須恵器稜碗 川崎市上台遺跡 川崎市民ミュージアム



「岡本寺」墨書高环形香炉
横浜市東耕地遺跡



須恵器仏鉢形土器 厚木市鳶尾遺跡



三彩陶器小壺 相模原市田名坂上遺跡
相模原市立博物館 相模原市指定文化財



銅鉢片 平塚市真田・北金目遺跡群
平塚市教育委員会



須恵器盤 平塚市真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会



須恵器小型瓶 海老名市上浜田遺跡



瓦塔片 平塚市真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会



「佛八」墨書土器 平塚市真田・北金目遺跡群
平塚市教育委員会



白毫のある人物仏顔墨書土器
平塚市真田・北金目遺跡群 平塚市教育委員会

5. 国府周辺では

相模国の国府は、平塚市四之宮に政庁協殿が発見され、平塚市にあることが確定した。国府周辺は濃密に竪穴住居・掘立柱建物が分布することが度重なる発掘調査で確認されており、国府域を形成していると考えられている。国府域とその周辺の発掘調査では、出土品の中に、多くの仏教関連遺物が含まれることが注目される。4 で取り上げた集落内と同様に仏鉢形土器や水瓶、浄瓶、瓦塔破片、「寺」「仏」墨書土器が出土するが、他にも緑釉陶器の香炉や蓮花文の緑釉壺、佐波理匙、灰釉陶器獣足付壺、土師器脚付大鉢（香炉か）、梵字や「大佛」墨書土器など特殊なもの、奢侈な製品が含まれている。「大佛」墨書土器は別地点で複数確認されており、国府域内に大きな仏像が安置されていた可能性もありうる。国府域では古代寺院の推定地とは別に、仏教関連遺物が国府域の各所で出土している。これらの仏具のほとんどは、遺構として目立たない仏堂・



土師器脚付大鉢（香炉か） 平塚市高林寺遺跡
平塚市教育委員会



銅製小仏像 平塚市六ノ域遺跡
平塚市教育委員会



瓦塔片 平塚市神明久保遺跡 平塚市教育委員会



緑釉陶器香炉 平塚市諏訪間遺跡
平塚市教育委員会



土師器・須恵器仏鉢形土器
平塚市山王A・大会原遺跡 平塚市教育委員会



緑釉陶器壺 平塚市林B遺跡 平塚市教育委員会



緑釉陶器香炉蓋 平塚市構之内遺跡
平塚市教育委員会



須恵器獣足付壺 平塚市梶谷原B遺跡 平塚市教育委員会



佐波理匙 平塚市山王A遺跡 平塚市教育委員会

祠、個人の礼拝施設、持仏堂などで使用されていたのだろう。また高級日用品として仏器風の製品が流通した可能性もある。金銅製小仏像は国衙の近くから出土したもので、長さ5cmの小さなものである。やはり小さな仏堂や屋敷内の礼拝用または個人の念持仏に用いられていたのだろう。

6. 火葬墓の出土品

古代の神奈川県においては、限定された身分の人々だけが火葬墓を作っていたと考えられる。火葬墓は川崎市から横浜北部に多く、渡来系の有力者と関係があると見られる。村落内寺院や中規模の寺院が多く確認されているのもこの地域である。火葬墓の骨蔵器には骨を入れやすい口の広い器が適しているため、在地の土師器甕や須恵器・灰釉陶器の短頸壺(薬壺形)がよく使われる。火葬墓は仏教信仰の影響による性格が強いいため、蔵骨器も仏器の薬壺形を選択する傾向があったのかもしれない。他には買地券状の短冊形の鉄板や刀子の柄などが出土している。



須恵器短頸壺(薬壺形) 川崎市生田火葬墓
川崎市民ミュージアム 川崎市指定文化財



須恵器短頸壺(薬壺形) 川崎市有馬火葬墓
川崎市民ミュージアム 川崎市指定文化財



須恵器短頸壺(薬壺形) 川崎市有馬火葬墓
川崎市民ミュージアム 川崎市指定文化財



須恵器短頸壺(薬壺形) 川崎市野川火葬墓
川崎市民ミュージアム 川崎市指定文化財



石櫃 川崎市生田火葬墓 川崎市民ミュージアム 川崎市指定文化財



短冊形鉄板(墓誌か)
川崎市野川火葬墓
川崎市民ミュージアム
川崎市指定文化財

トピックス1 村落内寺院の集中地域 上総・下総

4では神奈川県内の村落内の仏堂を紹介したが、東国で同じような仏堂が集中して発見されているのは千葉県の上総・下総地域である。神奈川県ではこのような村落内寺院は10例に及ばないが、この地域では50例近くが確認され、同一郷内に複数の仏堂が発見されることもめずらしくない。写真のように復元可能な瓦塔も数例出土している。上総・下総地域に集中する理由はまだ分かっていないが、官人・国分寺・豪族の寺院が中心となって造寺運動を民間に広めていった可能性が高い。



瓦塔 千葉県印西市馬込遺跡 千葉県教育委員会
千葉県指定文化財

7. 経塚の様相（平安時代末期～中世初期）

経塚は、末法思想の影響で経典を後世まで残そうと地中に埋めて塚とするものだが、平安時代末期にひとつの画期がある。神奈川県内では、丹沢・箱根山麓の地域や鎌倉周辺に多いが、前者は修験道や山岳信仰とも結びついたものであろう。前者として八菅山経塚・比々多神社経塚・御嶽神社裏山経塚、後者として永福寺跡内経塚などがある。

●愛川町八菅山経塚

愛川町の八菅神社の境内に多数の経塚が築かれている。八菅神社は修験道の拠点であり、明治時代の神仏分離までは多数の修験道の院・坊が存在していた。昭和47年に発掘調査が行われている。この際に平安時代末期から鎌倉時代初期の経筒外容器と見られる常滑壺、渥美壺が12点出土しており、蓋として使われていた和鏡も6点発見されている。本ページ下中央写真の壺からは左端写真の愛染明王や観音浮き彫りの合子出土している。刀子等も出土したとされるが所在は不明である。またこの調査以外でも境内では須恵質の経筒専用容器や常滑三筋壺が出土している。



合子形念持仏（愛染明王） 愛川町八菅山経塚
愛川町指定文化財 愛川町教育委員会



常滑壺（念持仏が入っていた）
愛川町八菅山経塚 八菅神社



常滑壺 愛川町八菅山経塚 八菅神社



常滑三筋壺
愛川町八菅山経塚 八菅神社



常滑壺
愛川町八菅山経塚 八菅神社



和鏡 愛川町八菅山経塚 八菅神社



三筋壺 愛川町八菅山経塚 八菅神社



渥美壺 愛川町八菅山経塚 八菅神社



常滑三筋壺 愛川町八菅山経塚 八菅神社

●伊勢原市比々多神社経塚

相模国の三之宮である伊勢原市比々多神社の境内に経塚が存在する。偶発的に発見されたため、詳細は不明だが丸瓦2点の間に銅製経筒を入れたA経塚、3点の常滑壺・渥美壺が1箇所から出土したB経塚、古瀬戸四耳壺を容器としたC経塚に分けられる。



経筒
伊勢原市比々多神社経塚 比々多神社



渥美壺
伊勢原市比々多神社経塚 比々多神社



古瀬戸四耳壺
伊勢原市比々多神社経塚 比々多神社

●南足柄市御嶽神社裏山経塚

昭和46年、南足柄市三竹の御嶽神社の裏の尾根先端部に大露岩があったが、林道工事のため、発破をかけたところ、多くの遺物が散乱して発見された。銅製経筒、常滑三筋壺、渥美壺、青白磁小壺、銅製提子、小刀が出土している。

●平塚市南金目琉球山経塚

平塚市南金目の光明寺の旧境内から銅製経筒が発見されたもので、経筒は平らにされて板状になっているが「仁平四年(1154年)口次甲戌 酉 願主覚賢 干 細工紀口清」の銘がある。

●永福寺跡内経塚

鎌倉市永福寺跡の伽藍を望む位置に経塚があり、発掘調査により、銅製経筒、渥美甕・片口鉢、白磁小壺、櫛、扇骨、数珠、腰刀等が出土した。源頼朝の発願である可能性が指摘されている。



銅製経筒 南足柄市御嶽神社裏山経塚
南足柄市指定文化財 個人蔵



銅製提子 南足柄市御嶽神社裏山経塚
南足柄市指定文化財 個人蔵



銅製経筒(仁平四年銘) 平塚市南金目琉球山
経塚 平塚市教育委員会



青白磁小壺 南足柄市御嶽神社裏山経塚
南足柄市指定文化財 個人蔵



渥美壺 南足柄市御嶽神社裏山経塚
南足柄市指定文化財 個人蔵



白磁小壺 鎌倉市永福寺跡内経塚
鎌倉市教育委員会 神奈川県指定文化財



銅製経筒 鎌倉市永福寺跡内経塚
鎌倉市教育委員会 神奈川県指定文化財



水晶製数珠 鎌倉市永福寺跡内経塚
鎌倉市教育委員会 神奈川県指定文化財 (写真は鎌倉国宝館提供)

第Ⅱ部 中世の仏教関連の遺跡・遺物

1. 中世都市鎌倉出土の仏像と仏具

鎌倉旧市街は大半が中世の都市遺跡に該当しているため、多くの地点で発掘調査が実施されている。多数の出土品に混じり、仏像・仏具が発見されることがあるが、寺院跡や墓だけではなく、屋敷地・町屋において出土することも多い。寺院・祠の他に、宅地内の礼拝施設・持仏堂での使用、個人の念持仏などが推定される。

●出土した仏像

木製・銅製・鉄製などの仏像が出土しているが、木製不動明王像と武蔵大路周辺遺跡の木製地藏立像は長さ15 cmを越えるものの、他は2～10 cm前後の小型の仏像ばかりである。個人の護身仏が多く含まれていると考えられる。また阿弥陀仏・観音菩薩・地藏菩薩が大半を占めており、当時、広く信仰を集めていた仏と一致すると指摘されている（薄井和男 2013）。鎌倉時代以降に流行した懸仏や硯に線刻した仏も出土している。



木製不動明王像 北条時房・顕時邸跡
鎌倉市教育委員会



木製木彫立像
覚園寺旧境内遺跡 鎌倉市教育委員会



木製地藏尊立像
若宮大路周辺遺跡群
鎌倉市教育委員会



木製地藏菩薩立像
智岸寺跡 鎌倉市教育委員会



木製地藏立像
武蔵大路周辺遺跡
鎌倉市教育委員会



銅製如来座像 由比ヶ浜中世集團墓地遺跡
鎌倉市教育委員会



鉛製阿弥陀如来立像
円覚寺旧境内遺跡 鎌倉市教育委員会



銅製観音立像 大倉幕府周辺遺跡群
鎌倉市教育委員会



銅製観音菩薩立像
由比ヶ浜中世集團墓地遺跡 鎌倉市教育委員会



懸仏 長谷寺境内 長谷寺



懸仏 名越 鎌倉市教育委員会



仏線刻画硯 若宮大路周辺遺跡群 鎌倉市教育委員会

●小型五輪塔・宝塔

小型五輪塔・宝塔は土製・銅製・水晶製・木製があり、一体で作られ、舎利を入れる穿孔のあるものがある。

●金彩板碑、金彩宝篋印塔、塔婆類、経石

板碑・宝篋印塔は鎌倉では多く出土するが、金彩のものはまれである。死者の供養のための塔婆類はたまに出土するが、鶴岡八幡宮で出土した大型五輪塔塔婆や碑伝形塔婆は類例が少ない。今小路西遺跡の板塔婆は「南



水晶製五輪塔 円覚寺門前遺跡 鎌倉市教育委員会



土製五輪塔 今小路西遺跡 鎌倉市教育委員会



銅製五輪塔 藤内定員邸跡 鎌倉市教育委員会



木製宝塔 鎌倉市教育委員会



金彩のある板碑 松葉ヶ谷奥やぐら群



金彩のある宝篋印塔相輪 長谷寺境内 長谷寺



経石 山王堂東谷やぐら群



土製布袋像 長谷小路南遺跡
鎌倉市教育委員会



碑伝形塔婆 鶴岡八幡宮境内
鎌倉市教育委員会



板五輪塔 鶴岡八幡宮境内
鎌倉市教育委員会



板塔婆 永福寺跡
鎌倉市教育委員会



笹塔婆 永福寺跡
鎌倉市教育委員会



板塔婆 今小路西遺跡
鎌倉市教育委員会



こけら経 仏法寺跡 鎌倉市教育委員会

無大日如来」「南無五大菩薩」などと書かれている。こけら経は、仏法寺跡の池状遺構や下馬周辺遺跡の沼跡から多量に発見されている。経石は、多文字のものが大半で、やぐら等から出土している。死者の供養として納められたものだろう。

●数珠

類例は少ないが、水晶製のものと木製のものが確認されている。



水晶製数珠玉 光触寺橋やぐら



水晶製数珠玉 材木座町屋遺跡
鎌倉市教育委員会



水晶製宝珠 今小路西遺跡
鎌倉市教育委員会



木製数珠玉 北条時房・顕時邸跡
鎌倉市教育委員会

●六器と五鈷杵

密教法具である六器は小型のものを主体として発見される。鋳型が見つかっていることから鎌倉で生産されているようである。蓋は発見例が少ない。同じく密教法具である五鈷杵は平等寺跡から石櫃内の火葬骨の上に置かれていたとされる。他にも能満寺等から出土している。

●梵音具

仏教で用いる発音具は、梵音具と分類されるが、板状の磬はつりさげて打ち鳴らすものである。鉄製と銅製が確認されている。引磬は鐘形の底部に柄をとりつけ、棒をうちつけるもので、鐘底部に穿孔がある。

●仏花瓶・香炉・仏供

仏花瓶は多くが陶磁器で、古瀬戸のものが多い。基本的に一对で使用したようである。青磁・金属製品なども出土しているが少数である。香炉も陶磁器のものも多く、古瀬戸や瓦質陶器、青磁・白磁のものが発見されている。仏供は今の仏飯器にあたり、出土例は少ない。下馬周辺遺跡の例には蓮弁の模様がレリーフ状に貼り付けてある。

●その他

勸進札を印刷した木印が佐助ヶ谷遺跡から出土している。宝塔が刻まれており、「勸進中道口建立」の文字等が彫られている。また、かわらけに地藏座像を墨書した事例もある。



六器 天王館 鎌倉市教育委員会



六器 西御門東やぐら群



六器の鋳型 若宮大路周辺遺跡群
鎌倉市教育委員会



六器 若宮大路周辺遺跡群 鎌倉市教育委員会



六器蓋 鎌倉市教育委員会



六器 千葉地東遺跡



五鈷杵 平等寺跡 鎌倉国宝館



磬 今小路西遺跡 鎌倉市教育委員会



磬 米町遺跡 鎌倉市教育委員会



引磬 若宮大路周辺遺跡群 鎌倉市教育委員会



古瀬戸仏花瓶 若宮大路周辺遺跡群 鎌倉市教育委員会



仏花瓶 由比ガ浜中世集団墓地遺跡 鎌倉市教育委員会



古瀬戸仏花瓶 笹目町遺跡 鎌倉市教育委員会



古瀬戸仏花瓶 杉本寺周辺遺跡内やぐら 鎌倉市教育委員会



古瀬戸仏花瓶 由比ガ浜南遺跡 鎌倉市教育委員会



古瀬戸仏花瓶 長谷小路周辺遺跡 鎌倉市教育委員会



古瀬戸仏花瓶 山王堂東谷やぐら群



瓦質香炉 西御門東やぐら群



瓦質香炉 新善光寺跡内やぐら群 鎌倉市教育委員会



古瀬戸香炉 長楽寺南やぐら 鎌倉市教育委員会



古瀬戸香炉 若宮大路周辺遺跡群 鎌倉市教育委員会



古瀬戸香炉 由比ガ浜南遺跡 鎌倉市教育委員会



古瀬戸仏供 下馬周辺遺跡群



木印(宝塔印) 佐助ヶ谷遺跡
鎌倉市教育委員会 鎌倉市指定文化財



白磁香炉 横大路周辺遺跡 鎌倉市教育委員会

2. 山岳信仰との関わり

山岳信仰は、古神道、仏教や修験道などと深く関わりがあり、それらが融合した形で、祭祀が行われてきた。

●箱根町大芝遺跡

大芝遺跡は、芦ノ湖のほとりにある箱根神社の境内の遺跡である。箱根神社は、奈良時代の創建以来、神仏習合的な山岳宗教の聖地として崇敬を集めてきた。平成11年の発掘調査では、鎌倉時代から室町時代の建物の基壇が発見された。それに伴い懸仏や鏡板、獅噛座、垂木隅飾り、宝冠破片、鈴等が出土している。

●伊勢原市大山山頂遺跡

丹沢山地の大山は、山形は神奈備型をなし、古くから信仰の対象だった。昭和35・40年、山頂の阿不利神社付近の発掘調査・採集で青銅五層小塔や多数の仏座像が発見されている。

●相模原市(旧藤野町)柵戸中原遺跡

旧藤野町の山中にて、昭和40年発掘調査が実施され、中世の青銅製如来座像が出土している。



懸仏 箱根町大芝遺跡
箱根町教育委員会 箱根町指定文化財



懸仏 箱根町大芝遺跡 箱根町教育委員会
箱根町指定文化財



垂木隅飾り 箱根町大芝遺跡
箱根町教育委員会 箱根町指定文化財



銅製五層小塔
伊勢原市大山山頂遺跡



懸仏鏡板 箱根町大芝遺跡
箱根町教育委員会 箱根町指定文化財



如来座像 相模原市柵戸中原遺跡



土製仏座像 伊勢原市大山山頂遺跡

3. 大寺院の園池から

鎌倉の大寺院では、庭園の池の中に溜まった泥にまじり、過去の遺物が多量に残されていることがある。中世の池を発掘調査し、多数の仏教関連遺物が出土した永福寺と建長寺について紹介する。

●鎌倉市永福寺

永福寺跡は、源頼朝が平泉の毛越寺や中尊寺を模して建設したといわれ、史跡整備のため昭和56年から度重なる確認調査が実施されている。中心となる二階堂・阿弥陀堂・薬師堂の前には池を中心とした庭園が設けられていた。池からは、多数の仏教関連遺物が出土している。漆塗り仏像断片、漆塗り台座、金銅製飾り金具、螺鈿器物、五輪塔婆、笹塔婆、黒漆塗り蓮華蕾、白木の剣、金銅製幡吊り金具などが出土している。失われた永福寺の壮大な伽藍をしのばせる多彩な内容となっている。

●鎌倉市建長寺

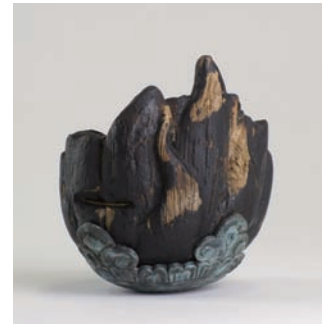
建長寺は、鎌倉五山第一位の禅宗寺院で、鎌倉を代表する大寺院である。平成12年、境内において中世に心字池があったという位置で発掘調査が実施された。検出された池の中からは多数の仏教関連遺物と祭祀遺物が出土している。蓮華座、木製蓮華飾り、剣刻印木簡、蓮彫刻板、僧の顔墨書土器、燭台、飾り座金、金銅製荘嚴具、祈願文木簡、板塔婆、舟形、人形、刀形、鳥形などが確認されている。特に舟形は多量に出土しており、池を利用した祭祀行為が寺院内で盛んに実施されていたことがうかがえる。



木製仏像の手 永福寺跡 鎌倉市教育委員会
鎌倉市市指定文化財



金銅製飾り金具 永福寺跡 鎌倉市教育委員会 鎌倉市市指定文化財



蓮華蕾 永福寺跡 鎌倉市教育委員会
鎌倉市市指定文化財



金銅製飾り金具 永福寺跡
鎌倉市教育委員会
鎌倉市市指定文化財



銅製飾り金具 永福寺跡 鎌倉市教育委員会
鎌倉市市指定文化財



飾り隅金具 永福寺跡
鎌倉市教育委員会
鎌倉市市指定文化財



金銅製飾り金具 永福寺跡 鎌倉市教育委員会
鎌倉市市指定文化財



金銅製飾り金具 永福寺跡 鎌倉市教育委員会 鎌倉市市指定文化財



金銅製環珞? 永福寺跡 鎌倉市教育委員会
鎌倉市市指定文化財



建長寺境内の発掘された中世の池



蓮華形装飾
板建長寺境内(写真は報告書転載) 建長寺



僧形の顔がある墨書かわらけ
建長寺境内(写真は報告書転載) 建長寺



金銅製荘嚴具 建長寺境内(写真は報告書転載)
建長寺



蓮華座※展示は類品
建長寺境内(写真は報告書転載)
建長寺

4. 中世集落の事例

農村部・集落の中や周辺部から仏像・仏具が発見されることがある。数としてはかなり少ないが、地域の村落でも仏教が信仰されていたことがよくわかる。

●厚木市曾野No.1 遺跡

戦国時代に造成された段切りに伴う溝から六器が出土した。周辺からは段切りに伴う掘立柱建物、地下式坑、土坑が確認されている。やや規模の大きい農民の宅地の溝と推定される。

●厚木市中依知遺跡群

戦国時代の地下式坑から引磬が出土している。地下式坑は群をなしているが、居住域は確認されていない。他の地下式坑からは埋蔵銭や銅製爛鍋が出土しているが、墓かどうかは明確ではない。

●伊勢原市上粕屋・小山遺跡

戦国時代の溝周辺から懸仏が出土している。斜面地の大溝のため、砦とも考えられるが明確ではない。

●海老名市河原口坊中遺跡

掘立柱建物の柱穴からほぼ完形の金剛盤が出土した。密教法具である金剛盤は、形態から鎌倉時代のものとされ、地鎮具として転用された可能性がある。本遺跡は御家人の海老名氏の本拠地にあたり、中世寺院も近いことから関連建物の可能性もある。



銅製六器 厚木市曾野No.1 遺跡 厚木市教育委員会



引磬 厚木市中依知遺跡群



懸仏 伊勢原市上粕屋・小山遺跡



金剛盤 海老名市坊中遺跡



鉦鼓 葉山町間門遺跡 葉山町教育委員会

●葉山町間門遺跡

包含層より14世紀後半と推定される鉦鼓が出土した。周辺には地下式坑や土坑、溝などが検出されているが同時期のものかは不明である。焼けて大きく変形している。

トピックス2 埋もれた三具足

東京都日野市の栄町遺跡のL区の土坑から銅製の三具足が完形で出土した。三具足とは、供養具の基本的な組み合わせであり、燈台・花瓶・香炉を指す。土坑には意図的に埋納されたもので、近くの礫敷土坑から銅製護摩杓(密教法具)が出土していることから墓域における祭祀の跡とみなす説もある。时期的には戦国時代と考えられる。栄町遺跡は、太刀なども出土しているところから中世の武士団の拠点集落であることが予想され、中世後半には居住域や墓域が形成されていたと考えられる。府中市宮西町でも完形の青銅製柑子瓶・管耳瓶・香炉の埋納が発見されており、神奈川県河原口坊中遺跡の金剛盤も埋納品である。武士団の拠点集落ではこのような銅製仏具を埋め、祭りを行うことが流行したのだろうか。



銅製香炉・燭台・花瓶 日野市栄町遺跡 日野市教育委員会

5. 戦国時代の城下町と居館の仏教関連遺物

戦国時代の城郭、居館に関連した仏教関連遺物は、あまり多くはないが、事例が確認できる。また、石塔類に限れば、県内各地の城郭・居館の堀や井戸などから出土する例はかなり多い。

●小田原城下

戦国時代の小田原城下の御組長屋遺跡と山角町遺跡では五輪塔と宝篋印塔の未製品が大量に発見されており、この付近に石工集団がいたことを推定できる。未製品は五輪塔なら空風輪、火輪、水輪、宝篋印塔なら相輪、反花座などが確認され、粗割りだけのものから打撃による成形をしているもの、完成に近いものなど様々



五輪塔空風輪未製品 小田原市山角町遺跡
小田原市教育委員会



五輪塔火輪未製品 小田原市山角町遺跡 小田原市教育委員会



五輪塔火輪 小田原市山角町遺跡
小田原市教育委員会



五輪塔空風輪 小田原市山角町遺跡 小田原市教育委員会



五輪塔水輪 小田原市御組長屋遺跡 小田原市教育委員会



宝篋印塔相輪未製品 小田原市御組長屋遺跡
小田原市教育委員会



宝篋印塔相輪 小田原市御組長屋遺跡
小田原市教育委員会



宝篋印塔塔身 小田原市御組長屋遺跡
小田原市教育委員会

である。未製品は石塔類にとどまらず、石臼、容器などに及んでいる。原石は川原石と考えられ、両遺跡および小田原城の西を流れる早川の流域や河口周辺の海岸部から採集したと見られている。近年、城内の御用米曲輪から石塔類の部品を大量に貼り付けた戦国時代の庭園跡が発見され、話題を呼んだが、このような石工集団の存在から調達が可能になったのかもしれない。

また同じ御組長屋遺跡からは川原石に五輪塔が陽刻された浮き彫り五輪塔が発見されている。近世の石垣に石材として用いられていたもので、戦国時代にさかのぼる石塔と考えられている。このような浮き彫り状の石塔は神奈川県では類例が少ない。また同遺跡で板塔婆も確認されている。

小田原城三の丸弁財天跡からはガラス製の数珠玉が出土している。

●清川村表の屋敷遺跡

清川村の表の屋敷遺跡では、外周に1町（約100m）四方の規模をもつ空堀を方形に巡らせた戦国時代の居館が発見された。居館の主は、伝承から旧宮ヶ瀬地区の開拓に大きく関わったとされる井上氏であると考えられ、在地の土豪のような身分だったと推定される。居館内では掘立柱建物の柱穴から懸仏が出土し、包含層から燭台が発見されている。懸仏は形態的に鎌倉時代末期までさかのぼるものである。居館の主が居館内で仏事を行っていた痕跡かもしれない。



数珠 小田原城三の丸弁財天跡



浮き彫り五輪塔 小田原市御組長屋遺跡



板塔婆 小田原市御組長屋遺跡
上段小田原市教育委員会



方形居館 清川村表の屋敷遺跡



懸仏 清川村表の屋敷遺跡



燭台 清川村表の屋敷遺跡

○引用・参考文献（報告書類は省略した）

石田茂作・坂詰秀一他『新編仏教考古学講座』1975～1977 雄山閣
 薄井和男「鎌倉出土の仏像彫刻」(一)・(二)・(三)『かまくら考古』16・18・20号 2013・2014 鎌倉考古学研究所
 太田和子・増井有真『武蔵国分寺のはなし』2010 国分寺市教育委員会
 大村浩司・田尾誠敏他『下寺尾官衙遺跡群の調査』2013 茅ヶ崎市教育委員会
 押木弘己・武井紀子他『木簡、語る 居村木簡が語る古代の茅ヶ崎』2014 茅ヶ崎市教育委員会
 考古学から古代を考える会『古代仏教系遺物集成 関東』2000
 坂詰秀一編「出土仏具の世界」『考古学論究 第5号』1999 立正大学考古学会
 坂詰秀一編『仏教考古学事典』2003 雄山閣
 田尾誠敏「古代一律令支配の浸透と在地社会―」『いにしへの小田原展 展示図録』2014 小田原市
 神奈川県立歴史博物館・金沢文庫・鎌倉国宝館『武家の古都・鎌倉』図録 2012
 富永樹之「神奈川の経塚」『神奈川考古』38号 2002 神奈川考古同人会
 平野卓治・柳沼千枝『古代のムラの神・仏』2008 横浜市歴史博物館
 山田磯夫・加藤かな子『甦る光彩 関東の出土金銅仏』1993 埼玉県立博物館

○協力機関（順不同）

横浜市歴史博物館、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター、川崎市教育委員会、川崎市市民ミュージアム
 横須賀市自然・人文博物館、相模原市立博物館、相模原市教育委員会、平塚市教育委員会、平塚市博物館、鎌倉市教育委員会
 鎌倉市国宝館、小田原市教育委員会、小田原市文化財課、小田原城天守閣、厚木市教育委員会、伊勢原市教育委員会
 海老名市教育委員会、海老名市温故館、南足柄市教育委員会、南足柄市郷土資料館、葉山町教育委員会、箱根町教育委員会
 愛川町教育委員会、千葉県教育委員会、千葉県立中央博物館、公益財団法人千葉県教育振興財団、国分寺市教育委員会
 青山学院大学文学部史学科、日野市教育委員会、公益財団法人かながわ考古学財団
 建長寺、長谷寺、比々多神社、浄光明寺、八菅神社、生沼豊氏



平成26年度かながわの遺跡展・巡回展

発掘された御仏と仏具 ―神奈川の古代・中世の仏教信仰―

発行日 2014年12月1日

編集 神奈川県教育委員会 教育局 生涯学習部

文化遺産課 中村町駐在事務所(神奈川県埋蔵文化財センター)

〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1

TEL 045-252-8661 FAX 045-252-8663

発行 神奈川県教育委員会

印刷 株式会社シンソークリエイト